

安心して暮らせる郷土のまちづくりを!

松井町政2期目スタート



任期満了に伴う積丹町長選挙が、5月29日に告示され、無投票で現職の松井秀紀氏（64歳）が2度目の当選を果たし、6月4日、磯野町選管委員長から当選証書の付与が行われました。

また18日には、役場庁舎玄関前で職員の出迎えを受け、女子職員から花束が贈られる中で2期目の初登庁をされました。

引き続き総合文化センターで全職員への就任のあいさつが行われ、松井町長は、「町職員は、国内外の情勢や地方自治体を

取り巻く国の政策の変化や動向に常に敏感であってほしい。地域主権時代の本格化が既に始まっている中で、市町村の自治力・財政力・行政力の3つが問われる時代。自覚と意識改革を常に心掛け、町民から期待されていことを忘れないでいただきたい。」とあいさつされました。

また、「町民の皆さんが安心して暮らせるふるさとづくり、町のどこかでキラリ輝くものがある、そんなまちづくりを目指し、全力を尽くして町民の皆さんの負託に応えたいので、これまで以上に職員の皆さんのご協力をお願いしたい。」と呼びかけ、26日からの定例議会の準備など多忙な松井町政の2期目がスタートしました。

＝就任ごあいさつ＝

▼新たな町総合計画の推進を▲
3つの課題の克服と
両立に全力で!

私は、去る6月3日執行の積丹町長選挙において、町民の皆さんの温かいご支援をいただき、2期目の町政の重責を担わせていただくことになり、去る16日就任しました。

国家財政悪化への危惧や、地震・津波・原子力など新たな防災対策、社会保障改革など、今日の地方自治体を取り巻く、難しく厳しい情勢を案じながらも、私たちの郷土積丹町を愛し、その秘めたる可能性を信じ、限らない発展を願う町民の皆さんからお寄せいただいた、信頼と期待に応えるべく、全力を尽くしてまいります。

私は、これまでの4年間、自己決定自己責任という地域主権時代の基本理念を、町民・議会・行政が常に共有しながら、町の財政の立て直しや、町の対外的な信頼関係の安定的な構築、町民の協働の精神の醸成など、険しい道のりを共に力を合わせ乗り越えてきた、私たちの貴重

な経験と努力の足跡を大切に、「財政の健全維持」と、「行政・公共サービス水準の維持」と、「町の振興・地域の活性化」という、3つの課題の克服と両立を基本とした町政運営を通じて、安心して暮らせるふるさとづくりの実現を目指してまいります。

その道のりは、決して平坦なものではありませんが、私たちには、郷土の漁業・農業・商工観光業を育み支えてきた水や農地、海や川や森の資源、安全でおいしい食、優れた海岸景観や自然環境、そして先人が築いてきた文化や歴史など、積丹半島先端の厳しい立地ゆえの、かけがえのない財産があります。

私は、こうした認識に立って、次の5つの基本姿勢で町政運営に取り組んでまいります。

1. みんなで支えあう「福祉」のまちづくり
2. みんなで育む「教育文化」のまちづくり

3. みんなで考える「産業おとし」のまちづくり
4. みんなで守る「環境と暮らし」のまちづくり
5. みんなでつくる「キラリ輝く」まちづくり

これらのまちづくりは、平成24年度から始まる第5次積丹町総合計画に基づく課題の解決や施策の推進を通して、その実現のために、町民の皆さんの英知をお借りし、職員とともに全力を傾けてまいります。

町民の皆さんの一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。就任のごあいさつといたします。

松井町長の略歴

昭和22年8月	積丹町(旧余別村)生まれ
昭和41年3月	道立釧路商業高校卒業
昭和42年3月	道立水産業協同組合講習所修了
昭和42年4月	積丹町役場入庁(余別支所勤務)
平成2年10月	企画振興室長
平成8年7月	議会事務局長
平成10年4月	歳入課長
平成12年10月	教育委員会教育次長
平成16年7月	助役就任
平成20年6月	町長就任(第1期目)

町議7期28年、積丹町の自治の発展に尽力

故中村 晃さん (日司町)

正六位・旭日双光章 授与 積丹町社会貢献賞

去る4月18日に亡くなられた元町議会副議長中村晃さん(享年69歳 日司町)に、野田内閣総理大臣から正六位旭日双光章が、また、積丹町の発展のため多大な功績を残されたとして積丹町社会貢献賞(自治功労)が授与され、6月4日、松井町長から妻の則子さんに勲記及び勲章の伝達と、町社会貢献賞が奥山副町長、井平教育長も同席して、仏前で手渡されました。

故中村晃さんは、昭和56年9月、当時38歳の若さで積丹町議会議員に初当選されて以来、平成21年9月までの7期28年間にわたり、本町の自治の発展と基幹産業の振興にご尽力されました。

また、その間、副議長、議会運営委員長等の要職を歴任され、議会の円滑な運営に尽くされるとともに、基幹産業である

漁業、農業の振興はもとより、観光業の振興や住民の生活環境の整備のほか、教育環境の向上に多大の尽力をされました。生前のご功績を称え、皆さんとともに心からご冥福をお祈りいたします。



～災害に強いまちづくりを目指して～

避難施設・災害対策本部に 防災資機材を配備



▲丸山会館に配備された防災資機材

万が一の大規模な災害が発生した場合、町職員や消防職員、消防団員などの防災関係機関は、全力をあげて防災活動を行います。道路の損壊、電話の不通、電気・水道等の寸断など悪条件が重なり、救助活動がすぐに行われない事態も予想されます。

町や消防などの行政機関(公助)が防災対策を強化することは言うまでもありませんが、何よりもまず、皆さん一人ひとりが、「自分の命は自分で守る」(自助)という心構えと、地域ぐるみ(共助)で防災体制を整えておくことが被害を最小限に食い止める最善の方法です。

自助・共助・公助が一体となって災害に強いまちづくりを目指しましょう。

町では、町内各地区の主な避難施設(会館など11箇所)と災害対策本部(役場庁舎)に、初めての防災資機材を配備しました。発電機や暖房機、投光機などの機材のほか、毛布や非常食などの生活物資は、住民が自ら取り扱うことのできる資機材を配備することで、地域の自主的な防災活動の強化と災害発生時の応急活動に備えるものです。

また、避難施設(21カ所)を明示するステッカーの整備や屋外避難場所(16カ所)には、標高表示の標識を設置しました。

●防災資機材が配備された避難施設

- ・積丹町総合文化センター
 - ・丸山会館
 - ・岬の湯しゃこたん
 - ・入舸会館
 - ・来岸会館
 - ・余別地区コミュニティセンター
 - ・婦美会館
 - ・野塚克雪管理センター
 - ・幌武意寿の家
 - ・日司小学校
 - ・神岬会館
- 計11カ所

●避難施設に配備された主な防災資機材

避難用品保管庫	工具セット
発電機	コードリール
遠赤外線暖房機	ポータブルラジオ
ガソリン携行缶	メガホン
充電式ポータブル投光機	非常用トイレ
ランタン	防災用クラッカー
ライト	保存水
毛布	軍手
多数人用救急箱	防水シート



▲研修センター敷地内に設置された標識